

## 市長記者会見記録

日時：2016年1月4日（月）午後2時～午後2時31分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：平成28年の年頭にあって

（話題提供）スポーツ特別賞の贈呈について（市民・子ども局）

かわさきWi-Fiが本格的にスタートします。（総務局）

### <内容>

#### （平成28年の年頭にあって）

司会： それでは、ただいまより定例の市長記者会見を始めさせていただきます。本日は、平成28年度の年頭に当たりまして、市長からご挨拶させていただきたいと思っております。また、スポーツ特別賞の贈呈について、「かわさきWi-Fiが本格的にスタートします。」の2題を話題提供させていただきます。

それでは、市長、よろしくお願ひいたします。

市長： 皆様、新年明けまして、おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年は年末にも申し上げましたけれども、大変残念な、あるいは悲しい出来事が川崎、多かったですけれども、今年は何とか市民の皆さんと一緒に明るい1年にしたいと思っておりますので、ぜひ皆様方にもよろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、スポーツ特別賞について発表させていただきます。

もう皆さん、ご存じのとおりでありますけれども、川崎フロンターレ、大久保嘉人選手が3年連続のJ1のリーグ得点王を獲得されました。J1リーグの3年連続得点王は史上初の快挙です。ぜひ今年も4年連続の得点王、そして、悲願のJ1リーグ制覇に向けて活躍をいただきたいと願っております。

大久保選手には、川崎市からスポーツ特別賞を贈呈させていただきたいと考えております。今年、多くの市民の皆さんにも一緒にお祝いできるように、1月16日、土曜日に武蔵小杉のグランツリーでの贈呈式を予定しております。ぜひ多くの市民の皆様においでいただきたいと思っております。

続きまして、かわさきWi-Fiについてご説明をさせていただきます。これまで本市では、行政施設などを中心にWi-Fi拠点の整備を進めてまいりましたが、このたび、一定の整備が進み、市民の皆様により便利に、より広範囲にWi-Fiスポットをご利用いただくことが可能となりましたので、本格的なかわさきWi-Fi

i のスタートとしてご説明を申し上げます。

お手元に資料も用意しておりますが、前方スクリーンをご覧ください。本市では、W i - F i スポットの整備について、市民の皆様や来訪者の皆様の利便性の向上につなげることを主な目的として取組を進めております。その整備の考え方といたしましては、1つ目は、市内には既に民間事業者による数多くのW i - F i スポットが設置されており、それらの活用による効果的な整備を進めること。2つ目は、防災目的や行政の施設については私ども行政が整備を進めること。そして、3つ目は、これまでW i - F i スポットごとに必要であった利用登録や接続時の認証手続の不便さを解消するため、W i - F i 接続アプリの活用を図ることなどでございます。

後ほどご説明いたしますが、このたび、かわさきW i - F i は整備箇所を約400拠点に広げたところでございますので、この機会を捉えまして、利用登録や接続認証の統一化が図られる「Japan Connected-free Wi-Fi」、通称「ジャパンワイファイ」へ参画することにいたしました。

ジャパンワイファイが提供する共通の接続アプリを市民の皆様にご利用いただくことで、本市が整備を進めております、かわさきW i - F i を含め、市内約1,400カ所のW i - F i スポットを、かわさきW i - F i と、その他のフリーW i - F i スポットを意識することなく一体的に利用できるものでございます。

次に、そのW i - F i スポットを連携するジャパンワイファイの主な特徴についてご紹介申し上げます。1つ目は、ジャパンワイファイに参画しているコンビニなどでの利用をはじめ、利用可能なW i - F i スポットが大幅に拡大すること。2つ目は、利用登録や接続認証の統一化された接続アプリの利用で、これまでW i - F i スポットごとに必要だった手続が簡略化され、W i - F i に簡単に接続できること。3つ目は、アプリに搭載されたサーチ機能により、最寄りの利用可能なW i - F i スポットを探ることができること。4つ目は、このアプリは英語、中国語など11言語に対応しているため、外国人の方も利用ができることなどでございます。

このアプリの利用の仕方ですが、App StoreやGoogle Playなどからアプリをダウンロードし、eメールによる利用登録をいたしますと、W i - F i スポットの近くであれば、接続ボタンをタップするだけでW i - F i に接続できるものでございます。このアプリを活用することで、市内で約1,400カ所、全国では約14万カ所のW i - F i スポットの利用ができるようになります。

次に、W i - F i の利用エリアでございますけれども、昨年度までに整備した区役所や市民館等の23カ所、そして、今年度整備いたしました市内小中学校の159カ

所、これは緑色のピンですね。それから、かわさきW i - F iにご賛同いただきました店舗等の民間アクセスポイント200カ所、赤いピンがございます。これにジャパンワイファイに参画した事業者のアクセスポイントが市内に約1,000カ所ございますので、接続アプリをご利用いただくことで、約1,400カ所のW i - F iスポットにおいて、ワンタップでインターネットへ接続できることとなります。今後も、こうした取組を継続して、利用エリアの拡大に取り組んでまいります。

次に、川崎市版オフラインガイドについてご説明をいたします。このオフラインガイドは、携帯電話回線やW i - F iに未接続のときでも、川崎工場夜景や藤子・F・不二雄ミュージアムなど、本市の魅力スポットを案内するコンテンツが閲覧できるものです。

また、ジャパンワイファイのアプリから事前にコンテンツをダウンロードしていただくことで、利用者が川崎市版のガイドを本アプリのホーム画面に設定できる機能もございますので、皆様にはぜひご利用いただきたいと思っております。なお、こちらの機能は1月末に提供を開始させていただきます。

最後になりますが、お手元の資料の下段にもございますように、W i - F iの整備の取組とあわせて、スマートフォン向けの情報発信の仕組みとして、現在、防災と子育ての分野のかわさきアプリを、本年4月の稼働に向け開発を進めているところでございます。詳細につきましては、資料の別紙2にイメージがございますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。

説明は以上です。

**司会：** ありがとうございます。

それでは、次に質疑応答に入らせていただきます。話題提供も含めて、市政一般ということで質疑は一括してお願いしたいと思っております。進行は幹事社さんお願いいたします。よろしくお願いいたします。

**幹事社：** 今年もよろしくお願いいたします。

**市長：** よろしく申し上げます。

### **(かわさきWi Fiが本格的にスタートします。)**

**幹事社：** 最初にW i - F iなんですけど、今回の1,400カ所で全て市内全域を網羅するという理解でいいんですか。

**市長：** 現在のところ、1,400カ所だということです。今後も増えていく。

**幹事社：** ああ、今後も増えていく……。

市長： はい。

幹事社： まだ、今のこの1,400カ所の段階だと、まだ全てを網羅しているわけではない……。

市長： そうですね。これからも民間事業者のところで、かわさきWi-Fiに参加していただく企業は当然増えていくでしょうから、今後も拡大していくということだと思います。

幹事社： 全域を網羅するのはいつごろとか、そういう目途ってあるんですか。

市長： 今、地図を見ていただいたとおり、かなり市全域にわたってWi-Fiは拡大していると思いますが、これからも加速度的に2020年に向けて増えていくのではないかと考えています。

### (絵馬への言葉について)

幹事社： わかりました。

あと、一般で。市長が稲毛神社の絵馬に「九転び十起き」。

市長： 「九転十起」。

幹事社： 「九転十起」と書いていました。その意味について、どのような思いで書かれたのか、ちょっと。お正月で絵馬ということ。

市長： あれは昨年11月に、たしか11月だったと思いますが、浅野総一郎さんの出身の富山県氷見市に訪問させていただきました。ご案内のとおり、浅野総一郎さんは川崎の臨海部を埋め立てて、川崎の発展をまさに一番最初に築いてくれた方であります。その方の座右の銘というのか、あれですけれども、「七転び八起き」というのはありますけれども、9回転んでも10回起きると。幾多の苦難とか困難を乗り越えて、次々に事業を発展させてきたという、まさにチャレンジスピリットにあふれる浅野総一郎さんの思いを、いま一度やはり川崎のチャレンジスピリットというか、様々な困難ありますけど、それを乗り越えていくという、そういう思いで「九転十起」と書かせていただきました。

幹事社： それで、今年のテーマにしようみたいな、そういう感じなんですかね。

市長： 私も常にチャレンジスピリットこそが川崎らしさだと申し上げていて、稲毛神社さんから、何か正月らしい、めでたい言葉をというお話があったので、そういう言葉を選ばせていただきました。

幹事社： わかりました。

各社さん、お願いします。

### **(かわさきWi-Fiが本格的にスタートします。)**

**記者：** かわさきWi-Fiの利用エリアマップって、下段のところ、臨海部のほうがピンが押されていないのがあるんですけども、物理的に工場が多くてできないとか、そういう感じなんですか。

**市長：** そうですね。もう本当に物理的に、工場というか、事業所だらけですので、今後もそこに増えることはないと思います。一部、コンビニだとかというのはあるかもしれませんが、そこが爆発的に増えていくことは考えにくいものですから。

**記者：** アプリですけど、4月に提供できるのは防災と子育てだけですか。ほかにもあるんだったら教えてほしいし、あと、その後も、検討段階でいいですが、こういうものもやっていきたいみたいなものがあったら、ぜひ教えてください。

**市長：** 4月においては、防災と子育てということであります。これは、もう既に、子育てアプリみたいなものは麻生区で先行的にやったこともございますし、特に市民ニーズが多いのがその2つの分野ということで、そこから先行して始めようと。今後、やはりかわさきアプリというのは、いろんな民間事業者の情報も含めて、一元的に川崎の情報を発信していくという仕組みですので、そういう意味では、今後、随時いろんな情報が加わってくると考えています。現時点の段階で次は何と決まっているわけではありません。

**記者：** Wi-Fiに力を入れる自治体ってほかにも色々あるんですけど、川崎ならではの、ここがほかのところとうちは違うよというところはあるんですか。

**市長：** おそらく、これまで先行していた自治体で、京都市だとか福岡市だとかってあると思うんですが、その自治体は、主にインバウンドだとか、いわゆる国内であっても来訪者向けがターゲットになっていたと。そのために整備しているということだと思いますが、川崎市の特徴は、市民の皆さんとインバウンドと両方に視点を当てているのが川崎市の特徴です。

### **(今年の明るい話題について)**

**記者：** あと、このWi-Fiから一旦離れるんですけど、冒頭おっしゃった明るい年にしたいということで、このWi-Fiも一つなんでしょうけど、今年はどういう明るい話題がありますというのがあれば挙げていただければ。

**市長：** やっぱり今年、けさの年頭の挨拶でもしたんですけども、これから臨海部のところは大きく、もう一度日本の成長を引っ張っていく、そういう地域になると思

いますので、その拠点整備が今年は大きく前進すると思っています。そういう意味では、昨年、連絡橋の決定はいたしましたけれども、今後具体化していくと思いますし、新しい局相当の部門もつくって、キングスカイフロントだけでなく、臨海部全体の大きな絵を描いていきたいと思っていますので、本当に少子高齢化というふうに、いろんな財政需要がこれからもずっと高まってきますが、その税源培養というか、力強い産業都市づくりというものにしっかりと取り組んでまいりたいと思っています。

**記者：** わかりました。今おっしゃるキングスカイフロントを含む臨海部というのは、まさにそこで、そのスライド表示で、ほとんど印がついてないところに一体的な整備計画をつくっていききたいということですか。

**市長：** 整備計画というのは、要は、この臨海部をもう一回どうしていくのかという戦略を描いていききたいということです。

#### **（かわさきWi-Fiが本格的にスタートします。）**

**記者：** また、Wi-Fiに戻ってしまうんですけど、今、1,400カ所ということなんですけど、最終的には何カ所ぐらいにアクセスポイントをやるのが最終目標になっているのかというのと、あと、市長の公約で1万カ所というのがあったと思うんですが、その整合性はどういうふうに考えておられるのかという……。

**市長：** これまでいろんな技術的な検証などもしていただいていますけれども、まず、1万カ所というのは、おそらくそのような数字にはならないと思います。というのは、そこまで整備すると、おそらく電波干渉が起きてしまうとも言われているし、そういうことになると思います。今後については加速度的に拠点が増えていくだろうと思いますが、現時点の中で何カ所にということは申し上げられる段階にはないと思います。

**記者：** 市長のイメージとしては、どこにいても利用できるようなという、そんなイメージなんですか。どういうことが最終的には……。

**市長：** そうですね。要は、ちょっとイメージしていただいて、Wi-Fiを使うところというのは、歩いている最中というよりも、むしろ駅の前で待っていたりコンビニのところとか、あるいは施設のところで、駅前だとかというふうな、そういうところが皆さん、Wi-Fiを利用されるポイントだと思うんですよね。そういうところに全て配備されている状況にしていくことが大事だと思っていますので、そういった意味では、これから着実に、こういう形で進んでいますし、これからも進んでいくと思っています。

**記者：** すいません、今のこの関連ですけれども、市長の公約の段階では、市内のどこでも無料でW i - F i が使えるようにというお話だったんですけれども、年末のときに、年始に発表するものは、家庭の中に公のW i - F i が入っていくようなものではないという趣旨の話をされていたと思うんですが、今後の整備方針の中でも、要するに、自宅にいて、かわさきW i - F i をただで使えるというような、そういうところまでは持っていくご予定はないということなんでしょうか。

**市長：** そうですね。自宅の中というのは考えられないですね。

**記者：** そうすると、あくまでも、例えば喫茶店とか駅とか、そういうような、外でということなんでしょうか。

**市長：** いわゆる完全なるプライベート空間に公共のW i - F i が入っていくという感じではないですね。

**記者：** 自宅で使えるようにはならない……。

**市長：** そうですね。もしかしたら、ほんとう、自宅の隣がW i - F i スポットでということの可能性ありますが、基本的にそんなことを目指しているものではありません。

**記者：** これは、当初から自宅で使えることを目指されていたわけではない……。

**市長：** そうです。それは、私の公約の中には、個人のプロバイダーまでどうのこうのという話ではありません。

**記者：** あと、もう一つ、当初の段階では、1万アクセスポイントをつくって、既存のキャリアの方々にローミングをしてもらって、ローミング手数料を得ることによって、市とキャリアがWin-Winの関係だというご説明をされていたと思うんですけれども、現実的にはそれは無理だということなんでしょうか。

**市長：** ローミング料を取るという手法は、おそらく無理だと思います。ただ、今後の話としてはそういうふうな、いろんなキャリアが入ってくるだろうというのは、可能性としては私は国の方針としてもあるのではなかろうかなとは思っています。

**記者：** あと、もう一つ、これも市長がかつておっしゃられていたと思うんですけれども、W i - F i で問題となるのはセキュリティーの問題だと思うんですけれども、このかわさきW i - F i の場合というのはセキュリティーはかかるようになっているんでしょうか。

**市長：** それぞれセキュリティーについては、まず、かわさきW i - F i を利用される方には、個別のウイルス対策、あるいはプライベートな情報をやりとりする、関する注意喚起はしっかり行っていくことがまず1つです。それから、都度、暗号化して

アクセスキーを入力することによる方法もあるかと思いますが、これはユーザーの利便性の低下につながるおそれがあることから、その実施に当たっては、一部施設でのモデル的な実証なども含めて検討を進めていく方向にしたいと思っています。

**記者：** ということは、基本的にはセキュリティーがかからないということなんですか。

**市長：** いわゆる個別のセキュリティーはやってくださいということですね。だから、セキュリティーをものすごく高めていくと、一々、暗号化したものを持っていかなくちゃいけないということと……、よろしいですか、はい。

**ICT推進課長：** 総務局ICT推進課でございます。セキュリティーにつきまして、ほかのWi-Fi事業者が提供しているものと同じように、無線区間、いわゆるアクセスポイントから携帯までの間については、このところについてはセキュリティーというものは基本的にはかからないような形になっています。ただ、利用していただくのに当たって、誰でも自由に無制限にという形ではなくて、最初に利用登録をしていただくような形になります。それで、一定の追跡性みたいなものは担保した上でご利用いただくというような形にしてございます。

**記者：** そうすると、そのアクセスポイントのところから端末、タブレットとかスマホまでの間のところはセキュリティーがかからない……。

**ICT推進課長：** はい。ほとんどのWi-Fiの提供しているものと同様な形になっています。ただ、今、市長がおっしゃられたように、今後、利用に当たっての煩わしさですとか、そういったものが解決されるような方向性になりましたら、そこら辺のところもあわせて検討していきたいと思っています。

**記者：** なるほど。わかりました。

### **(産業政策について)**

**幹事社：** すみません。今日の職員の年頭の挨拶の関係なんですけれども、産業面で転換点を迎えていると強く感じたということで、今お話しできる範囲でもいいんですけども、この産業転換が川崎市にとって、キングスカイフロントを除いて、市内の経済活性化ですとか、そういった市にかかわってくるような産業面の転換ってこれからあるんですかね。

**市長：** そうですね。これまでも3つのイノベーションについて川崎市は取り組んできましたけれども、これは引き続きしっかりとやっていきたいと思っています。去年、それこそ環境技術をクラスター化するグリーンイノベーションクラスターをつくって、

そして、さらに力強くパッケージ化してやっていく動きを今年もさらに強めていきたいと思えますし、それから、これは私どもが主導するというよりも、臨海部の企業を中心に超高付加価値なものに、いろんな素材メーカーだとか、あるいは燃料のところもそうですけど転換してきているというのは、これは大きな変化だと思っています。そういう意味では、そういった大きく変化している、転換している事業所が川崎に非常に多く立地していますので、そういったところとしっかりと連携していくことも重要でしょうし、ご案内のように、研究機関も今まで二百数十カ所と言ってきましたけれども、調べ直したら400カ所近くまで伸びているということですから、こういった研究機関同士のオープンイノベーションというものが様々なところでできていくのではないかなということを期待しています。そういった環境を、市でできることがあれば、しっかりとやっていきたいなと思っています。

それから、細かいことかもしれませんが、やはりこれから都市農業のあり方も川崎市として、補助政策みたいなのではなくて、しっかりと力強い都市農業をつくり出す戦略的な農業を川崎市としてもしっかりと応援していきたいと思っています。

**記者：** 今おっしゃられた産業転換というのは、おっしゃられたように、素材エネルギー産業が環境事業に色々シフトしているという、太陽光発電とか水素とか、そういうことを指しておっしゃっているんですか。

**市長：** そういうことも含めてです。

**記者：** 今の関連で、一部報道によると、知事はキングスカイフロントに県立大の大学院をつくりたいなというようなことを言っているようなんですけども、まさに川崎市のところなんですけど、市長はこの話をご承知おきで、かつ実現しそうな話なんでしょうか。

**市長：** いや、僕は、この話、今日、初めて報道で見たので、これはまた、知事ともお話ししたいと思っています。

**記者：** 今、臨海部がフイージビリティスタディの地域に選ばれて、その中で、やっぱり人材をあそこに集積していこうというお考えを示されていたんですけども、あとは周りとの連携ですか。この構想の中とか、この構想の先に、そういう大学院構想みたいのものもあるのかな。大学の人たちを集めたいというような話をされていたので。と思っていたんですけども、川崎市はここには今のところはかんでない……。

**市長：** 知事がおっしゃっているお話ですか。

**記者：** はい。

市長： いや、それは私どもとしては全く……。

記者： ああ、そうですか。

市長： はい。私が報道で知ったぐらいですから、それは存じ上げませんでした。

記者： できればすごくいいなと思って、あそこ、なかなか民間の人たちが、民間というか、研究者以外の人たちが行きづらいところなので、ああいうところにそういうものができたらすごくいいななんて思っていたんですけど。

市長： そうですね。記者にご指摘いただいたように、あそこ、リサーチコンプレックスのフィージビリティスタディのところで、慶應大学が中核機関として、今一緒にやろうというところをやっているところですので、私どももそうですし、県としても、そのところのご理解はあると思っていますので、いずれにしても、人材育成のところから最後の出口に至るまで、産業まで一気通貫して、あのエリアを拠点整備していくのは、これは共通の認識だとは思っています。

記者： ありがとうございます。

#### **（富川市との記念行事について）**

幹事社： 全く別件なんですけど、一部報道で、韓国の富川市と、今年、川崎市、姉妹友好都市20周年ということで、記念の行事が行われるという報道が出たんですが、今年はどうな行事が行われる予定ですか。

市長： それこそ、12月28日に富川市長が川崎にお見えになりまして、今年、20周年になるから、いろんなことをやっていきましょうねということで、これ、まだ、みんなに言っていないんですかね。今年の毎日映画コンクールには富川市長がお見えになることになっていますし、富川市の映画祭には私が行くようなご案内をいただいているところでもあります。

特にやっぱり未来志向で子どもたちの交流をということで、いろんなスポーツだとか、あるいは音楽だとかというところでのお話はそれぞれ進んでいると私は聞いております。

#### **（民泊について）**

記者： また別件なんですけど、民泊についての市長の見解を伺いたいんですが、民泊の規制緩和、国でも議論になっていて、県内でも黒岩知事が活用について積極的な姿勢を見せているんですが、宿泊施設が非常に少ない川崎市で、この民泊をどう活用していこうかという考えとございますか、具体的な構想があれば、あわせて教えてください。

い。

**市長：** それこそ昨年12月25日に政令指定都市市長会がありまして、そこでも、私は観光・MICEのプロジェクトチームに入っているんですが、それぞれ民泊についての議論もありました。それぞれ条例というよりも、国で今の業法の中で少し新たな区分を設けてという話も聞いているので、その法律の運用の形を見きわめていきたいなどは思っていますが、やはりメリットと同時にデメリットもあるので、そこをしっかりと担保していかないといけないなと思っておりまして、そのような発言をさせていただきました。特に、いきなり住宅地で民泊が起きてくることになると、それは市民生活には少なからず影響を及ぼすことですから、そういったルールづくりは少し、これから形が見えてくるのであれば、機会を見て意見していきたいなどは思っていますけれども。

**記者：** そうすると、国の法律ではなくて、例えば、独自に条例を定めるとか、そういった構想は今のところはない……。

**市長：** ないですね。もう既に国でその検討が始まっている状況ですから、条例でどうのこうのとしている間に、もう国が既に動き出すということですから、そこにしっかりと、もし私どもと違う考えのことであれば、しっかりと国にも要望活動していきたいと思っておりますし、そういう立場です。

**記者：** ありがとうございます。

**記者：** その絡みで。県のほうは、民泊の条例をつくりたいと知事がおっしゃっていて、保健所設置には働きかけるなり、何とかしていきたいみたいなことを言っていたと思うんですけども、その辺は、川崎市さんに県からそういうご相談とかも特にまだないという感じなんですか。

**市長：** 事務方レベルと、それから、四首のときにも、たしか、そういうお話が知事からもあったようには記憶していますが、そのご発言があったときは、まだ国のほうでそういった取組についてのご発言がなかったことだと私は理解していますので、今、国のほうで動いてきているので、今も知事が同じようなお考えなのかというのは、あさってぐらいに会うので、そういう機会も通じて聞いてみたいとは思いますが、いずれにしても、なるべく歩調を合わせてやったほうがいいと思っておりますので。

**幹事社：** ほか、いかがですか。よろしいですか。

**司会：** それでは、以上をもちまして、市長記者会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(以上)

---

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355